

受講番号 18026 学校名 高知小津高等学校 氏名 野口 満理

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年2ホーム

生徒数 41 名

科目名 英語Ⅱ

単位数(授業時数) 4 時間

使用教科書名 One World II

クラスの様子・特徴

生徒は明るく素直で、学習態度も良い。音読をすることは必要と感じている生徒が多く、積極的に参加する。学習への意欲はあるが、家庭学習の習慣ができていない生徒が多い。真面目に授業に取り組む一方、実力が伴っていないように思われる。

問題の確定

音読することで、授業で覚える語彙を増やす。授業中に少しでも集中して覚えることは、家庭学習への意欲につながらないか。

予備調査

A 授業の観察

復習テストや文法説明に時間をとりすぎる事があり、時間内に音読できない日があった。一部和訳プリントの配布は、和訳があると安心して説明を聞かないこともあり、訳にこだわっているように感じた。音読の強弱、スピード換えの音読は、積極的に参加する。

B 生徒による授業評価

復習をするようになった生徒の中に、音読の復習をすることを始めた生徒もいる。音読や音読後のワークシートは好評である。1学期には復習しなくてもついていけるという生徒がいたので、プリントを工夫する必要がある。

C 学力データ

学年ごとの共通小テストは、週一回であるが、平均は75点でそこその点数である。復習5点テストは、平均3点であり、必要性が薄れている。少し前に返って質問をすると、答えられない生徒が多く、実力はまだまだであり、語彙が不足している。

リサーチ・クエスチョン

音読やワークシートを工夫することで、教科書にある単語や熟語をいかに語彙力として定着させ、訳に頼らず内容理解の能力をつけさせることができるか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒

実践1

⇒

検証1

授業の最初に復習テストを必ず行うことで、前回の授業の内容の語句を確認することができるのではないかと。1学期はテストをしない日があったので、まずテストがあることを習慣づける。点数を取ることを考えるようになれば、休み時間あるいは家で復習する取り組みの一つになるのではないかと。

復習テスト5問を毎時間行う。(週に1度教科書以外のテキストの小テストがあるので、その日以外、週に3回。)答え合わせでは、隣の生徒と交換し、間違っていれば解答を書くように指示する。答えの確認は教師が音声で行い、自分たちが教科書を開き確認するようにさせる。

毎回5問テストを行うことに慣れ、授業前には単語や熟語を確認する生徒が増えた。合格点は4問から5問である。合格点に達する生徒は、最初は8名くらいであったが、徐々に20名から30名は合格点を取る生徒が増えてきた。ただし、生徒達的能力から、家で勉強しなくても休み時間のみで点数が取れているのではないだろうか。

仮説2

⇒

実践2

⇒

検証2

文章を何回も音読することで、単語や熟語の定着はのびないだろうか。できるだけ、毎時間音読の時間を作るような授業を考える。ただ読むのではなく、文に強弱をつけて読ませたり、集中して読ませた後、ワークシートや音読チェックをしたりすることで、少しでも語彙力強化につながらないか。

その時間の復習あるいは前回の授業の復習として必ず音読をする。音読にバリエーションをつけないと、生徒は飽きることがあるので、文の強弱をつけるだけでなく、スピードを変えたり、ペアで読ませたりする。音読後にワークシート、音読チェックをする。このチェックもバリエーションをつけて、生徒がマンネリ化して覚えなくてもいい雰囲気を作らないように気をつける。

文の強弱を意識することで、その文の伝えたい内容の一部でも頭に残るようになった生徒もいる。また、その時間内で多少単語等を書くことができる生徒も出てきた。意識して文章を読む生徒もあり、家でも音読を心がける生徒も出てきた。反面、授業中にもみ集中し家庭学習をすれば、もっと語彙力がつくのにと思われる生徒がいる。

仮説3

⇒

実践3

⇒

検証3

フレーズの区切りを知り、英文を文頭から読み、一文のきちんとした訳にこだわらないようにするには、音読をするときに、フレーズの区切りを確認するようにしたら、意味のかたまりを知ることができるのではないかと。パラグラフのキーセンテンスを強調して音読することで、内容確認ができるのではないかと。

本文の説明、文法事項確認後音読をする。必ずフレーズの区切りを意識させる。音読後のワークシートで、英文の質問に対し、答えを本文に引かせる。(英問英答)パラグラフの内容の読みとりをさせた後、キーセンテンスのみの音読をする。最後にその時間の英文の音読をさせる。

フレーズの区切りを意識した英文や日本語を見るのに、生徒が慣れてきた。一部和訳(フレーズ区切りの文)を自分で並べ替えるようにしてみると、予習する生徒、復習する生徒が若干増えた。また、英語の力が不足している生徒にとっては、英問英答でなく、探し出して下線をひくのは努力しているようだ。説明や音読をしっかりと聞いていれば、パラグラフのキーセンテンスなどのあたりかわかると生徒に好評である。

研究の成果

教師が目標を設定し実践しようとしたことで、教科書をすすめるだけでなく、生徒にどういことを求めているかを説明できた。生徒達もどのように勉強したらよいか、少しはわかってきたように感じる。時々生徒が疲れて、音読の声が小さくなくても、目標を伝えることで積極的に声を出す生徒もいた。1学期と2学期とワークシートを変えたことで、学習意欲を出した生徒もいた。まだまだ少数だが、家庭学習をする生徒も出てきはじめた。生徒と共に教材を工夫していくことで数人でも実力をつけていってほしい。

今後の授業改善の課題

要領よく成績を取る生徒が多い中、音読後のワークシートは生徒にとって厳しいものである。次回は1つのパラグラフのみ、家で音読筆写させ、授業に音読後のワークシートで反映させれば家庭学習をする生徒が増えるのではないだろうか。復習テストもこれから続け、少しでも語彙力を増やしていく生徒が多くなるように、心がけたいと思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-822-5270

電子メール

mari-noguchi@kt2.kochinet.ed.jp